原市場が生んだ偉人、山川兄弟

-郷土館収蔵資料目録７『原市場地区諸家文書目録』の成果を中心に-

【番外編　資料目録(古文書)が語る郷土の歴史～前篇～】

第一回から第四回まで「原市場が生んだ偉人」と銘打ち、山川家の人物について山川義太郎を中心に述べてきました。

最後は番外編として、収蔵資料目録についてのお話をお届けいたします。収蔵資料目録は当館刊行物の中でも、残念ながら「内容が理解できない」「使い方がわからない」「何のためにあるのかわからない」「興味が無い」といったお声をいただくことが多いものとなっています。そこで番外編では、収蔵資料目録とは何か、収蔵資料目録を学習にどう活かせるのか、について少しお話ししたいと思います。まず前篇では、収蔵資料目録そのものについてご紹介します。

１　郷土館収蔵資料目録について

(１)郷土館収蔵資料目録とは

郷土館収蔵資料目録とは、当館が収蔵する資料をリスト化し、資料群や資料が残されてきた地域の概要とあわせて一冊の本にまとめたものです。

このような目録を刊行する主な目的として、当館では

○地域の歴史・文化・特性などを知るために必要な資料や情報の所在を提供すること。

○市民に対し、市民の財産として管理している資料の内容をお知らせし、それを適切に保存していくことを約束すること。

の二点を挙げています。(郷土館収蔵資料目録７『原市場地区諸家文書目録』「はじめに」より※以下『目録７』)つまり、収蔵資料目録は情報公開の側面が強く、利用されることでその存在価値を発揮するものといえます。

(２)資料目録の構成

資料目録は、一般的にどれも似たような構成となっています。『目録７』の構成は以下のとおりです。

①例言

収録史料の点数や、目録の記載についての注意点などが書かれています。ここを見ると、収録されている史料群のボリュームや目録(史料一覧)の各項目がどのような基準で記されているのか、また、主として誰がこの目録を作成したのか、などを知ることができます。

②解題・解説

目録本体の前に収録されている解説文です。史料が所在していた地域や村の概要、史料を所蔵していた家や史料群の中で特徴的な事柄についての解説、史料受入れと整理の経緯、目録のダイジェスト解説などが書かれていることが多いです。

③目録

収蔵史料が一覧表になって収録されています。本の核となる部分です。目録の見かたは下記を参考にしてください。

【目録の見かた】

文書の分類…目録は、文書の内容ごとに分類して掲載しています。上段が大分類、下段が小分類となっており、この場合は「村に関係する文書のうち、特に村の政治に関わるもの」となります。

年月日…年代の古い順に並んでいます。年代不明なものは、時代の古いもの→干支の若いもの→月が早いもの→日にちだけのもの→何もわからないもの、の順になっています。

表題…文書のタイトルです。タイトルがわからないものや、同じタイトルのものがたくさんある時は、〔　〕や(　)で内容も書きます。この部分を見れば、大体どのような文書なのかがわかります。

形態…文書の形をあらわしています。それぞれの用語については、「例言(凡例)」に説明が記載されています。

A村方
村政

No.	年月日	表題	作成者	宛所	形態	備考
12	天保15 . 11 . 朔	印鑑帳			横半	
19	天保16 . .	〔天保年間出入願書等写〕			竪帳	
18	天保17 . .	済口案(裁判関係書類雛型)	山川		竪帳	
70	天保18 . 4 . 7	〔例年通り種痘医出張にて村方へ達し願いに付書状〕	畑ヶ中鈴木屋房二郎	下赤工村戸長山川達蔵様	切続	
43	天保19 . 2 . 5	御領主様年始入用(組内11名ゞ742文外136文割当書上)	名主五右衛門	文次郎組	切紙	

④史料集

目録に収録されている史料群や目録として掲載できなかった史料群から一部を抽出、翻刻して掲載しています。目録の中から厳選された、良質な史料が選ばれることが多いです。この場合の良質とは、

○一つの史料の中で内容が完結している。
○史料群を象徴する(特徴づける)内容である。
○地域のことがわかる。

などといった特徴を示します。翻刻とは、史料に書いてあることをそのまま文字に起こしたものです。現代の日本語とは少し違うので読みづらい部分もありますが、その分史料が作成された当時の雰囲気を感じることができます。

今回は収蔵資料目録についてご紹介しました。次回は、この目録を実際に学習にどう活かしていくか、具体的な内容に踏み込んでお話ししていきたいと思います。